

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都②		
所在地	〒698-0204 鳥根県益田市美都町山本イ2番地3 2階		
自己評価作成日	2019年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和元年11月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎職員は、人生の終盤での出会いを大切に思い、常に利用者本人が主体であることを念頭に置き、多くの笑顔が見られ、達成感を感じることができるよう努めている。  
◎職員間の連携がしっかりとでき、その輪で利用者の方々を支えていく事ができるように、日々努力している。  
◎グループホームが地域の中の一員であることを念頭に置き、地域との関わりを持ち、継続できるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな静かな山間の住宅地の中に位置している。既存の建物の2階部分の為スペース的な面や1、2階への移動を含めて制限が多い中での生活を余儀なくされているが、入所者全員が女性で、そして職員の異動も無く落ち着いており、ゆったりと穏やかなアットホーム感がある。職員は常に広さを意識し声がけには充分注意を払いながらケアを行っている。開所からの年数も経過していることもあり、自治会の一員として地域開催の介護予防の体操にも週1回のペースで参加を継続しており、近隣との良好な関係が伺える。今後に於いても、地域の課題でもある認知症対策に専門職としての関わりを続けていっていただきたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で共通の理念があり、毎月の職員会議で1項目ずつについて、理念に沿ったケアができていのかどうか振り返りし、会議の場で職員全員で確認、共有している。また介護事業部内でサブスローガンを設定し、周知、共有に努めている。	グループ全体の理念を意識して動けるよう、毎月自己評価を行い提出しているが、職員の負担にならないよう月に1項目を取り上げ評価するようにしている。管理者がとりまとめ意識共有できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館掃除や地域の行事である祭り、百歳体操、まめな体操などに積極的に参加している。日常的には散歩や買い物などに出掛けており、野菜を差し入れをいただくなど交流を図っている。月1回音楽療法のボランティアも利用している。	管理者は地域の自治会の総会に参加したり、奉仕作業にも地域の一員として出ている。地域ボランティアとして音楽教室の講師派遣も継続中。施設の畑でさつま芋を栽培しており、それを持ち近所の保育園への訪問を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地元高校生の介護実習の受け入れを行い、人材育成に貢献している。また地域ケア会議に職員が出席し、ホームでの困難事例を提出、地域課題の抽出等に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、事故・ヒヤリハット事例、現在気を付けている事や、困ったこと等報告し、意見交換をしている。そこで出た意見などは、職員に伝達、共有し、できることは実践することでサービス向上に活かしている。	遠方の家族が多い為家族関係者の参加は得られていないが、地域からは自治会長、老人クラブ会長、民生委員、第三者委員に包括、市職員の参加で開催。状況報告後意見や質問を得て次回に繋げるようにしている。	家族関係者などできるだけ多くの参加が得られるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議を通して、ホームの実情や入居者の暮らしぶりや今後について、また家族からの相談事等を報告し、助言を頂いている。	管理者が毎月地域ケア会議に参加しており、事例を通して地域の課題を検討したり、認知症対策に関わったりしており行政との良好な関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム全体が2階に位置しているため、危険回避から階下への出入り口はやむを得ず施錠しているが、家族の理解を得、職員も拘束であるという認識を持って行動している。また虐待身体拘束について年2回内部研修を行っており、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催テーマを決め意見交換をしている。	建物の構造上複数の出入り口の危険性が高い為施錠を行っている。拘束をしているという意識を持ちながら、少しでも動けるようにベランダの出入りは自由にできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止に関する自己チェックを職員全員が行い、自らのケアを振り返り、必要があれば管理者が面接を行っている。法人内でも内部研修を実施、職員が参加し、その都度職員会議で伝達講習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域ケア会議にて事例を提出、成年後見制度について知識を深めることの重要性を感じている。権利擁護については「人権憲章」としてマニュアル確認の読み合わせを行っている。しかし、職員全員が活用し支援できる体制ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に利用料金、終末期や重度化への対応、契約解除などについて、十分に説明し理解を得ている。改定の際も、その都度家族へ説明し、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは家族アンケート、家族会、来所された時やケアプラン作成時などに意見・要望を聞くように努めている。また利用者からは日々のケアを通して思いを汲み取る努力をしている。要望意見は職員間で共有し話し合い、ケアに活かしている。	年に1回家族会を実施している。今回は思い出作りの為に多肉植物の寄せ植えをみんなで楽しむよう企画している。月1回の便りやアンケートなどを通して意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と日頃からコミュニケーションをとり、何でも話しやすい関係を築くように努めている。月1回の職員会議や毎日のミーティング等で意見交換をし、管理者は本社上司も出席するホーム長会議にて職員の意見・提案を伝えている。	管理者は細目にミーティングを行う事で気軽に意見が言いやすくなるよう、雰囲気作りに気を配っている。年に2回は食事会を行いコミュニケーション向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホーム長会議や、折に触れて職員の状況・要望等を運営者に伝えている。また運営者は職員の資格取得のための援助のため、支援・貸付制度を設け、その意欲に応えるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも、また法人内で外部の講師を招き実施している内部研修にも、できるだけ多くの職員が参加し、研修報告書の提出、職員会議での伝達講習を行っている。また毎月テーマを決めマニュアル確認、勉強会をホーム内で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域のグループホーム全体の職員を対象に、年2回テーマを設けて研修を開催している。講演会やグループワークによる意見交換を通し、職員同士の交流を持ち、その内容をホームに持ち帰り、職員間で共有、よりよいケアに繋げていく努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みされた家族の思いや、事前面接での本人の状況、想い、さらに担当ケアマネージャーから提供された情報を、職員全員で共有し、ご本人の気持ちを受け止め、安心できる声掛け、ケアができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み書の内容、自宅訪問や、ホームへの来所見学、電話相談などを通じて、家族の状況思いを汲み取る努力をし、真摯な対応を心がけ、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階ではご家族と今必要なケアについて確認し、不安の解消ができるように協力を得ている。職員も、ケアを通し観察、会話をし、気づきを共有し、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般において共に行動する事を基本とし、1人1人に役割を持っていただき、できる事に力を発揮してもらいながら、達成感を感じ、時に教えてもらい、喜び合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りに写真や近況を載せ送っている。また面会時や、電話連絡時に日々の様子や変化を伝え、現状の理解をいただき、共に支えていく関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族旅行や墓参りなど、本人、家族の思いを大切にしながら対応をしている。またホーム近くの散歩やひなたぼっこ、いきいき百歳体操など地域行事への参加を通じて、地域や地域の方々との新しい馴染みの関係を作れるよう支援している。	毎週1回のいきいき体操への参加を続けていることもあり、近くのスーパーや行事に行くとき声をかけてもらうことが増えてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性を毎日のミーティングや職員会議などで共有、理解し、席の配置等には配慮している。また、家事、手作業といった役割を通し、入居者同士が関わり、支え合い、信頼し合うことができるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他施設に入所されても、これまでの生活が継続でき、家族との関係性にも配慮し、必要に応じて情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情等を通して本人の思いや意向を、職員ひとりひとりが汲み取るよう努力している。失認、失語の症状のある方は、その方が穏やかに過ごされている環境を職員全員で共有、対応を心がけている。	普段の生活の会話の中から聞き取ることを重視しており、その内容を家族関係者の面会時に伝え、思いを確認することを繰り返している。特に入所時の対応が重要と考え、職員間での情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を通して、またケアプラン作成時、面会、家族会などの機会に利用者のこれまでの人生、生活歴についての情報を知る努力をしている。また毎日の生活を通して、本人からお聞きするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや、日々の申し送り、記録、ミーティング、伝達簿や職員会議などで意見交換や情報、気づきの共有をし、職員全員でお一人お一人の能力や、心身状態を見極め、現状の把握と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を聞き取り、また推察し、家族の面会時に家族の要望、意見も聞き取り、介護計画を作成している。毎月アセスメント、モニタリングを行い、職員の意見、気づきも取り込んでいる。	モニタリングは毎月1回、アセスメントは6か月に1回に行うようにしており、担当者会議には家族関係者の参加を得て、計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には職員の気づきや、入居者のエピソードなどを記入しており、特にご本人の発せられた言葉を大切に、記録している。それらについてミーティングや職員会議などで意見交換しケアやケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から家族が来所した時、昼食を一緒に摂っていた(有料)等の声掛け、配慮をしている。その他の要望に対しても、本人、家族の状況を考慮しながら、必要に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会や民生委員、老人会の役員の方々の参加もあり、地域で行われる行事等を紹介いただき、参加に繋げられるように支援している。また月1回の音楽教室も大きな楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医を継続できるように配慮している。継続困難な場合は往診が可能な医院を決めていただいている。往診時には本人の様子を報告、必要に応じて家族にも報告している。体調不良などにより急な受診が必要な時、家族が受診困難な時は職員が速やかに対応している。	往診を基本としており、かかりつけ医を継続する場合は往診をお願いする形。往診が難しい場合は往診可能な協力医の中から入所時に選んでもらうようにしている。他の科への受診を職員が対応する場合は実費負担に改定。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は毎日利用者のバイタル測定を行っており、利用者との関わりや様子観察により気づきがある時は、月2回の訪問看護師に報告相談している。必要と判断すれば医師に連絡し、早期に医療機関への受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を病院の方に提出している。また可能な限り面会に行き、病状について病院関係者からも、また家族からも情報を得て、職員全員で共有し、退院後のホームでの生活の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、入居契約時に家族に説明、意向を聞いている。本人の状態に応じて、その度家族に説明、相談し、主治医との連携のもと、可能な限りの対応をしている。	以前は重度の方の入所があり、看取りも経験しているが、全体の介護度が軽くなり重度者は限られている。入浴等の設備面を考え、他施設への移動も含めて、話し合いの機会を持ちながら対応する意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度全職員が救命講習を受講している。また、急変時マニュアルや急変時対応について勉強会を行い、周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や業者の協力のもと、年に2回火災時の総合避難訓練と年1回の災害避難訓練を行っている。全職員、入居者参加を基本とし、真摯に取り組んでいるが、ホームが2階に位置していることで、さらなる努力が必要である。	2つのユニット合同で定期の訓練を実施している。すぐ近くに消防署があることから安心感は強い。土砂崩れの危険地帯となっていることもあり、地域との協力性を高める必要性を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い環境という事もあり、どこに居ても他者の目にも、耳にも付き易い。そのためパーテーションを利用したり、プライバシーに関わる言葉かけや、対応については、他者に配慮して行っている。	狭いということを常に意識し、大きい声でのプライベートな声がけをしないように心掛けている。施設内では接遇研修を行いケアの基本として繰り返し取り上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、答え易かったり、選び易かったり、納得し易かったりする声かけ、働きかけをすように努めている。また日々の生活の中で会話や表情、反応を読み取り、本人の希望を把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務表はあり、おおまかな一日の流れはあるが、それに、職員が縛られることなく、本人のペースや、希望、また非日常の楽しみに沿って意欲的に、笑顔のある生活ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラシを本人にわかるように用意し、起床時は自ら整容していただくようにしている。眉墨で眉を整えられる方には要望時に対応支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の嗜好や食べられない食材について、職員で共有している。食材の買い物や調理、盛り付けなど一緒に行い、また職員と一緒に食事のテーブルも囲んでいる。食後の下膳や食器洗いも会話を楽しみながら一緒に行っている。	入居者全員が女性で調理を日課としている方も多く、低めのテーブルを用意し野菜の皮むき、切刻むことや盛り付け等できる作業は職員と一緒に行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に一度管理栄養士による栄養指導を受けている。毎日食事量や水分摂取量を記録しており、本人が食べやすいような食事形態、食事量を考慮し、また食器や箸、スプーンなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、1人1人の状態に応じた見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄後、洗浄液に浸している。また職員では行き届かない部分は、家族に相談し、歯科往診をお願いし、口腔内の清潔や咀嚼の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて入居者の方1人1人について排泄リズムを把握し、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄ができるように、声掛け、誘導している。声掛けは本人の自尊心や他者の目や耳に配慮して行っている。	個々に合わせた対応としているが、排泄場面でもプライドを傷つけない声掛けに注意を払っている。スムーズな対応は職員間で共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から入居者の方々の最終排便日を毎日確認している。散歩や百歳体操へ参加し、自然排便に働き掛けをしている。また便秘対策として毎朝ヨーグルトと果物を提供している。水分摂取量が少ない時は水分補給をしていただくように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後からの帰宅願望や不穏を避け、午前入浴をしている。一人一人の対応について職員全員で共有し、入浴したくない方には清拭、足浴、あるいは更衣だけでもしていただくように支援している。	週に2, 3回のペースで入浴できるようにしている。家庭浴槽なため広くはないが1対1の対応でゆっくりくつろげるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は一人一人の様子を見て休息の声掛けをし、それぞれのペースで居室で過ごしていただいている。夜寝る前には温かい飲み物や、室温調節をし、気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一人ずつファイルし職員はいつでも内容を把握できるようにしている。変更がある時は伝達簿に記入し症状の変化の確認に努めている。服薬時はチェック表で服薬確認し、薬袋を数日保管することで誤薬、服薬ミス防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の意向や、役に立ちたいという思いに添えるよう、日々の暮らしの中でできる事をしていただき、感謝の言葉を伝えている。月に一度の音楽教室やお花見、地域行事への参加など、非日常の楽しみを大切に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の公民館で毎週行われているいきいき百歳体操にその時参加できる方々と参加している。天気の良い日は散歩に出かけたり、ひなたぼっこをしている。またその日の気分や体調、希望に合わせて、ドライブ、買い物など外出できるよう努めている。	施設周りの散歩やいきいき体操には歩いて参加。食材の買い物に数人ずつ交替で出かけている。天気の良い日にはベランダに出てお茶を楽しんでいる。お正月の初詣、とんど焼き、花見など季節を感じられるよう外出行事も計画的に実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことはご本人とご家族の希望と判断に任せている。ご家族の希望とご本人の安心のためお金を財布に入れ所持されている方はおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状に自筆で名前と一言書いていただいている。また宅配便が届けば、職員が取次、お礼の電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い環境のため、環境整備や、テレビの音量、職員同志の会話などには気を配っている。エレベーターホールは玄関として明るく清潔を保持する努力をしている。またホールには季節を感じる物や花などを、心がけて飾るようにしている。	既存の建物を改修しているため台所もダイルームも十分な広さはないが、天井が高く明るいため開放感がある。ベランダに出ると外の景色はよく見えるが、中には季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダには自由に出れるようにし、長椅子を置きひなたぼっこ等でどなたも過ごせるようにしている。それぞれの居室に集まり談笑されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や使い慣れた寝具を使っている。ペットの向きなども自宅と同じになるよう配慮している。居室には自分の趣味の物や、家族写真を飾るなどし、自分の居場所として心地よく過ごせるよう配慮している。	衣類の収納に場所を取らないようまとめて保管するようしており、限られたスペースの中でも動きやすいよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況や、会話などから汲み取り、混乱や不穏の原因となるものを見極め、その時の状況に合わせてパーテーションの設置や席替え、環境整備を行い、安全に、安心して生活できるよう配慮している。		